

平成 27 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |         |            |
|---------|------------------|---------|------------|
| 事業所番号   | 4079500221       |         |            |
| 法人名     | 有限会社 元気の里        |         |            |
| 事業所名    | グループホーム 元気の里     |         |            |
| 所在地     | 福岡県田川郡糸田町下糸田2495 |         |            |
| 自己評価作成日 | 平成27年9月22日       | 評価結果確定日 | 平成27年11月8日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん |
| 所在地   | 福岡県直方市知古1丁目6番48号           |
| 訪問調査日 | 平成27年10月28日                |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

|                         |
|-------------------------|
| 美味しい食事とのどかな田園風景、家庭的な雰囲気 |
|-------------------------|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

|   |
|---|
| 思いやりを持って優しく声をかけをするとの理念を日々復唱しているが、入居者の笑顔やゆったりとした暮らしぶりから、理念の安全で快適な環境づくりも伺える。駐車場の恒例の納涼大会や共用空間でプロのピアノ演奏を家族と共に楽しんだり、子育て支援センターの誕生会に参加して楽しいひとときを過ごすなど、理念の地域交流に努めている。また、入居者のプライドに配慮しながら便失禁に対応したり、寝たきりになりつつある入居者に車イスやポータブルトイレを使用する機会を検討するなど、心身の状況に沿った個別援助を全職員で実践している。管理者宅の傍に開所されたホームで、地域の人望も厚く、医療機関との良好な連携で医療的処置を支援したり、家族等の意向を重視しながら看取りも支援している。今後も、地域に密着したサービスで理念の具現化が期待できるホームである。 |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|---|---|--|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:25,26,27)       | ○ 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,21)     | ○ 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:20,40)             | ○ 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,22)                       | ○ 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:40)                   | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:38,39)    | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)  | ○ 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:51)                  | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う   | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:32,33)         | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                     | ○ 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |  |   |

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム元気の里**

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |  |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 理念は職員自らの手で作成し、朝晩の申し送り時に復唱している  | 理念は、玄関や共有空間に掲示され、また事務室にも笑顔で挨拶、言葉でふれあいと掲示し、理念の実践に努めている。入居者の笑顔やゆったりとした暮らしぶりから、理念の安全で快適な環境づくりも伺える。                 |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | こども110番の家として、通学児童の避難先としての役割を担っている。またトイレなども貸し出している。地域の行事、祭りなどの機会にも交流の機会をもっている | 駐車場で開催される納涼大会は恒例となり、登下校する小学生が手を振ったり、お水を飲みたいやトイレを貸してと訪れることもある。今回案内を受けた子育て支援センターの誕生会に入居者5名が参加し、楽しいひとときを過ごしている。    |  |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 認知症周知についての活動は現在行っていない  |   |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                       | 2カ月に一度の推進会議の場において、町の福祉課や民生委員、区長、包括支援センターの方々との意見交換や情報提供を行っている                 | 家族参加は毎回ではないが、適切なメンバーの出席で定期的開催されている。行事や避難訓練などが報告され、議事録が玄関に設置されている。   | 運営推進会議の目的や活用を家族に周知するために、毎月発行されている家族通信に、運営推進会議の案内や内容の掲載をお願いします。 |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる  | 運営推進会議によって定期的に連絡を取り、また何かあれば助言などを求めている  | 地域包括支援センターの案内で、子育て支援センターの誕生会に参加したり、介護サービス事業所情報交換会に出席するなど、日頃から情報交換や連携が行われている。                                    |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員のミーティングの席において身体拘束についての研修を行った。また、玄関は夜間防犯上施錠する以外は解放している                      | 拘束しないことは当たり前のことと日々取り組んでいるが、大声も入居者には脅威になると、ミーティングで話し合いをしている。夜間以外は施錠していないため、玄関から出て行こうとする入居者には、目配りや気配り、声かけで対応している。 |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                      | 虐待について職員ミーティングにおいて研修をおこなった   |   |  |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----|------|---|--|--|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 8  | (6)  | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している   | 現状ではそれらの制度を活用される利用者がおられないので取り組んでいないが、必要となった時のために知識は蓄えていく | 現在まで、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用者はいない。通帳を預かっている入居者もあり、入居当初に市担当者に相談し、家族と預かり書を取り交わしている。   | 今後は多様な家族関係が予測されることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレット等を整備し、入居者や家族に情報提供をお願いします。 |
| 9  |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている  | 入所時に十分な説明を行っている  |  |  |
| 10 | (7)  | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 意見を求める張り紙と、意見箱を置き要望を求めている。もちろん口頭での要望もうかがっている             | 毎月発行している家族通信で入居者の近況を知らせ、家族からの意見の表出を促している。家族等が何時でも見れるように、玄関にこれまでに発行した家族通信の綴りが設置されている。また、訪問者の制限を要望する家族もあり、いきさつに配慮して適切に対応している。                                |  |
| 11 | (8)  | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている   | 職員のミーティングの席において個々の職員より意見を求める時間を設け、業務や介護に反映させている          | 毎月定例のミーティングが開催され、率直な意見交換を行っている。職員の提案で、脱衣場の棚の衛生物品が整理され、転倒予防のため居室にセンサーが設置された居室もある。入浴介助は職員が1人で支援するため、天井から垂らしたる紐を引き緊急を知らせる非常ベルが設置されるなど、職員のアイデアが活かされている。        |  |
| 12 |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている   | 個々の職員に対しヒアリングを行い、意見を聞いている                                |  |  |
| 13 | (9)  | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。<br>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 実行できている  | 離職が少なく、7～8年就労している職員も多い。ハローワークやロコミでの入職もある。職員年齢や個々の状況に応じて、非正規雇用にしたり、勤務時間に配慮したり、管理者や主任等が職員の能力に応じて、指導を行っている。職員の休息室がないため、管理者が入居者に、昼食後は職員が休息を取るように伝え、協力をお願いしている。 |  |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる  | 個々の職員の常識に任せている。人権を侵害するような行為には目を配っている                     | 理念の「思いやりを持って、優しく声かけをする」を実践するために、管理者は挨拶等の接遇を重視し、特に声の大きさに配慮するように日頃から指導している。管理者は声の大きさが脅威になる経験をしたと話している。   |  |

| 自己                           | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
|                              |    |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15                           |    | ○職員を育てる取組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている          | 新人の職員に対し研修を受けて貰ったりしている。初めての夜勤時にはベテラン職員がOJTを行っている |      |                   |
| 16                           |    | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | グループホーム協議会などの懇親会などへ参加している                        |      |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |  |      |                   |
| 17                           |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている        | 入所時、ヒアリングを行っている                                  |      |                   |
| 18                           |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                   | 入所時、ご家族よりも要望等をヒアリングしている                          |      |                   |
| 19                           |    | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている               | 状況を見極め、本人とご家族とも話し合い、サービス利用について判断する               |      |                   |
| 20                           |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 日々心がけている   |      |                   |
| 21                           |    | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 家族通信などで現状報告し、また来苑された際にはお話をさせてもらい、共に支え合う意識を高めている  |      |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |  |
|------------------------------------|------|--|---|---|--|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 22                                 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                                       | 各利用者の人生の背景を聞き出し、関連した情報があれば話を振るなどして記憶の喚起に努めている | 家族との外食や病院受診の同行を支援したり、家族通信で関係継続を支援している。誕生会に参加する家族もあり、食事が一緒にできるように配慮している。   |  |
| 23                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | 席の配置など、配慮している                                 |   |  |
| 24                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 現在までそのような例はない                                 |   |  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |   |  |
| 25                                 | (12) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 可能な限り努めている                                    | 入居時に入居者や家族の意向を伺い、ミーティング等で情報を共有している。自分の想いを表出できる入居者が多いが、生活歴や職歴等の情報を基に、その時々的心情を推し量っている。  | 把握した情報をアセスメントシートに整備し、新しい情報を加記したり、再アセスメント結果は前回のシートに印字を変えて記載するなどの工夫で、さらなる意向の把握をお願いします。 |
| 26                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | ご家族等からヒアリングし、把握に努めている                         |   |  |
| 27                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 日々の暮らしの中から読みとっている                             |   |  |
| 28                                 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族や本人からは特に要望が出ないことが多く、その場合は計画作成者が推し量って作成している | 担当者会議で介護計画を話し合い、ミーティングで介護支援専門員がケア内容について説明している。トイレトペーパーをポケットに入れ、他の入居者に配る入居者には衛生面に配慮しながら対応をしたり、寝たきりになりつつある入居者に車イスやポータブルトイレの使用する機会を検討している。 | 支援経過記録は詳しく記載されているので、ミーティングを職員が個々入居者をモニタリングする好機と捉え、より現状に即した介護計画の作成を期待します。             |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                                    | 個人記録や申し送りノートにより情報を共有し、計画作成者はそれをまとめたものを参考に計画を立てている                 |  |                   |
| 30 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                           | 特に取り組んでいない  |  |                   |
| 31 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                     | 特に取り組んでいない  |  |                   |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                               | 基本的に往診に来て下さる医院をかかりつけにしているが、本人や家族からの希望があれば柔軟に対応している                | 特定疾患やハルンバック装着の入居者は協力医療機関の往診を受けたり、訪問マッサージも支援している。眼科で手術を受けた入居者は家族同行で受診しているが、体調変化時は職員が随時受診に同行し、家族状況を報告している。 |                   |
| 33 |      | ○看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                      | 看護職は一名であるが、介護職員と共に業務にあたり、情報の共有や管理者・ケアマネへの意見などによって受診や看護の適切化に貢献している |  |                   |
| 34 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際には病院側に話し合いの場を設けていただき情報の共有に努めた。                               |  |                   |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 折々の機会をみてご家族と話し合い、その時に備えられるようにしている                                 | 医療機関との連携体制の指針や看取り内容に関する書面、同意書を整備している。この1年以内は看取りはないが、ホームでの看取りや葬儀まで希望する家族もあり、管理者は意向に沿った支援をしたいと話している。       |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価                                   | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況                                   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている           | 訓練は行っていないが、苑内研修で知識の取得に努めてもらっている        |   |                   |
| 37                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 定期的な防災訓練を行っている                         | 5月、10月に避難訓練を実施している。夜間想定での訓練ではマットごとの搬送が難しいことが課題となった。消防署来所での訓練では、緊急通報のボタンをもっと強く押すようにと指導を受け、運営推進会議で訓練結果を報告している。地元消防団に運営者家族の介護支援専門員が加入し、地域との協力体制を築いている。                                   |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |   |                   |
| 38                               | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                | 日々努めている                                | 入居者を名字で呼称し、穏やかな声かけが実践され、笑顔の入居者が多い。行政の承諾を得て、一つの居室で夫婦で生活をしている入居者もあり、夫婦としての在り様を尊重した声かけや対応をしている。  |                   |
| 39                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 本人からの意見を尊重している                         |   |                   |
| 40                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の意思を尊重している                          |   |                   |
| 41                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 体温調節の妨げにならないよう注意を払いながら各利用者の自主性にお任せしている |   |                   |
| 42                               | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | テーブル拭き、食器の片付けなどを一緒にして頂いている             | 理事長自家製の米や季節の野菜が調理されている。テレビが消され、入居者が食事に専念できるように静かな環境づくりをしている。職員も入居者と同じ食事をしながら、食卓でキザミ食にしてご飯の載せたり、食事のすすみ具合に声かけしている。個々のペースでゆっくりした食事で、完食する入居者がほとんどである。食べ終わると、「食べていない」と話す入居者もあるが、穏やかに接している。 |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価                                      | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況                                      | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                 | 記録をつけ、確保できているか確認している                      |  |                   |
| 44 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                          | 歯科医などの指導もうけながら実行している                      |  |                   |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている          | 定期的なトイレ誘導など行い、おむつ使用は可能な限り行わないようにしている      | 排泄のリズムを把握し、声かけでトイレでの排泄を支援している。排便後の洗浄で、保清や感染防止に努めている。寝たきりになりつつある入居者にも、ポータブルトイレを使用する機会を検討している                      |                   |
| 46 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                          | 排便などの記録をつけ、便秘が長期化しないようお薬なども用意している         |  |                   |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 残念ながら時間を決めて入浴して頂いている                      | 竹林が見える広くゆったりとした個浴槽が設置され、週2回の入浴を支援している。入浴を拒否する入居者もあるが、順番を変えたり声かけの工夫で全員が入浴している。移乗や移動が困難な入居者には、浴室を暖めて、シャワー浴で対応している。 |                   |
| 48 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                           | 室温などに注意を払い、快眠を支援している                      |  |                   |
| 49 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                      | 薬の説明書を職員がいつでも見れる場所に置き、目的や副作用などが分かるようにしている |  |                   |
| 50 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている         | 縫物、洗濯ものたたみなどしていただいている                     |  |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                     | 希望があればできる限り対応する                                    | 入居者の心身状況に配慮し、車内からの花見に出かけている。寝たきりになりつつある入居者の心情に配慮し、外出を検討中である。家族同伴で外食したり、医療機関に出かける入居者もある。庭先で花々を眺めながらの散歩や、満開の桜の時期には、理事長宅の庭先で食事等楽しんでいる。            |                   |
| 52 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 金銭の管理は行っていただいている                                   |  |                   |
| 53 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | ご家族への電話など、対応している。                                  |  |                   |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日々清掃を怠らず、快適な環境が出来ている                               | 共用空間は食事だけでなくでラジオ体操や口腔体操の場となり、今年もプロの演奏家のピアノ演奏を家族と共に楽しんでいる。縁側の大きなサッシからは、四季折々の田苑風景や地域の人や小学生が手を振りながら行き来する姿も見られ、入居者の楽しみになっている。空調や換気を管理し、食後寛ぐ入居者も多い。 |                   |
| 55 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 仲の良い利用者は隣同士すわってもらい過ごしてもらっている。一人になりたい方は自室で過ごされている   |  |                   |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | ご家族にご協力を仰ぎ、私物や馴染みの家具などを持ってきていただいている                | 居室入り口には、ネームプレートが掛けられ、介護用ベットや大きめのクローゼットが設置され、衣類等がすっきり収納されている。愛用の筆筒や鏡台等の家具が持参され、家族の写真の掲示やご位牌等が祀られている居室もある。                                       |                   |
| 57 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | 住環境コーディネーターを持った設計士による建物であり、手すりやスペースの確保など、配慮がなされている |  |                   |